

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 31号

2013/01/07 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを 5 本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：年末にカカオ市場は大幅下落、年始は大きな変化なし

①週最高：LDN 市場 £ 1,448 / NY 市場 \$2,263 (12/27、12/26) 先週比 **LDN - £ 84 / NY - \$162**
②週最低：LDN 市場 £ 1,422 / NY 市場 \$2,220 (共に 1 月 4 日) 先週比 **LDN - £ 47 / NY - \$92**
週内差額 (①-②)：LDN 市場 £ 26 / NY 市場 \$43

【12月26日(水)】NY7日連続、LDNは休場

休場明けのニューヨーク市場のココア先物は7営業日続落となり、5カ月ぶりの安値で引けた。一部の投資家が閑散商いの中、手じまい売りを出した。3月きりは10ドル(0.4%)安の**2263ドル**と、中心限月としては7月25日以来の安値で引けた。ロンドン市場はボクシングデーのため休場。

【12月27日(木)】LDN7カ月ぶり安値、テクニカルな売り

200日間移動平均を割り込んだことでテクニカルな売りが誘われ、ロンドン、ニューヨーク市場とも数カ月ぶり安値に下落した。

ニューヨーク市場の3月きりは8営業日続落。8ドル(0.4%)安の2255ドルと、7月25日以来の安値で引けた。

過去5営業日に200日間移動平均を割り込んだため、多くのトレーダーはテクニカルな売りに出るサインと受け止めた。

ロンドン市場の3月きりは21ポンド(1.4%)安の**1448ポンド**と5月30日以来の安値で引けた。7営業日続落。同限月は10~12月期に10%以上値を下げている。

あるアナリストは「問題は(期近物では)これといった支援材料が見当たらないことだ」と指摘。また、チャート上の材料が見つかるまで、さらに40~50ポンド下落する可能性があるとの見方を示した。

【12月28日(金)】NY市場は5カ月ぶり安値、LDNも安い

両市場ともに続落。ニューヨーク市場の3月きりは6ドル(0.3%)安の2249ドルと7月下旬以来、5カ月ぶりの安値で引けた。

同限月は200日移動平均線だった2368ドルを先週に割り込んだことで、チャート筋や投機筋の手

じまいの売りを浴びて下落が加速した。

プライス・フューチャーズ・グループのバイスプレジデント、ジャック・スコビル氏は、「西アフリカ諸国からは十分な供給量があるようだ」と指摘した。ロンドン市場の3月きりは8営業日続落し、3ポンド（0.2%）安の1445ポンドで終了した。5月きりは一時1441ポンドと、2番ぎりとしては6月以来の安値まで落ち込む場面もあった。（

【12月31日（月）】両市場とも続落

ロンドン市場の3月きりは3ポンド（0.2%）安の1435ポンドで引けた。ニューヨーク市場の3月きりは13ドル安の2236ドルで終了した。

【1月2日（水）】LDN続落、NYは反発

ロンドン市場の3月きりは続落、4ポンド（0.3%）安の1438ポンドで引けた。一時は昨年4月以来の安値となる1429ポンドを付けた。

マレックス・スペクトロンの農業部門の共同責任者、ジョナサン・パークマン氏は「供給状況が、特にコートジボワールで6～8週間前に比べ、やや改善されているようだ」と語った。

ニューヨーク市場の3月きりは反発し、23ドル（1%）高の2259ドルで終了した。

【1月3日（木）】LDNは反発、NYは反落

ロンドン市場の3月きりは1433ポンド、5月きりは反発し、4ポンド（0.3%）高の1442ポンドで引けた。前日には一時、8カ月半ぶり安値となる1429ポンドを付けていた。一方、ニューヨーク市場の3月きりは小反落し、3ドル（0.1%）安の2256ドルで取引を終えた。

主産地コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（CCC）は、投資不足を理由に、今シーズンの同国産カカオ豆生産量が13%減の128万9000トンになるとの見通しを示した。ただ、市場では織り込み済みで、相場にはほぼ響かなかった。

需要面では、1月半ばに発表される2012年10～12月期のカカオ豆圧砕高統計に市場関係者は注目している

【1月4日（金）】LDNは反落、NYは続落

ロンドン市場のココア先物は、8カ月半ぶりの安値に下落した後、下げ幅を縮小した。米国の雇用の伸びの鈍化を受け、米連邦準備制度理事会（FRB）が金融緩和政策を見直す可能性に対する懸念が後退した。

ニューヨーク市場のココア先物も続落。ただ、コートジボワールの生産減少によって、相場は下支えされたという。

ロンドン市場の3月きりは**1422ポンド**、5月きりは、10ポンド（0.7%）安の1432ポンドと反落して引けた。一時は1426ポンドと、2番ぎりとしては2012年4月13日以来の安値まで下げた。

コメルツ銀行は投資資料で「コートジボワールにおける収穫量の減少によって、2012～13年度は過去3年で初めて供給不足となる可能性が高い。このため、今後はココア相場が反発する可能性も高い」

と指摘した。ニューヨーク市場の3月きりは、36ドル（1.6%）安の2220ドルで引けた。一時は2210ドルまで下落した。

2、コートジカカオ生産数量、前年対比13%減少か(1/4)

コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（CCC）の首脳は3日のインタビューで、2012～13年度（12年10月～13年9月）の同国カカオ豆生産高が前年比13%減の128万9000トンにとどまるとの見解を示した。老朽化したコーヒー農園への投資が不足していると指摘した。メインクロップの収穫は95万5000トン前後、ミッドクロップの収穫は33万4000トンと予想した。11～12年度のカカオ豆生産高は148万6000トン

3、コートジ産カカオの集荷数量合計が62万4千トン。昨年対比で減少(1/3)

コートジの港湾へのカカオ豆の着荷数量が10月のシーズン開始より12月30日現在までで62万4千トンとなったことが輸出業者筋の統計によって判明した。昨年同時期での着荷数量は70万2,127トンからは減少となった。

輸出業者によると、12月24日～30日までの1週間でアビジャン港とサンペドロ港に合計で7万トンのカカオ豆が納品された。昨年の同時期の1週間では8万994トンであったことから、週間単位でも減少となった。

4、インドネシアカカオ生産数量予測、及び1月のカカオ豆輸出関税(12/26)

インドネシア通商部の発表によると、2013年のインドネシア全体のカカオ生産数量は958,000トンの予測で、2012年の903,652トンを上回る見通し。

また、2013年のカカオ豆の輸出関税については、以前と変更なしの5%を継続することを発表した。

5、ブラジルのカカオ着荷数量、前年対比で25%増加。(1/3)

ブラジルの主要なカカオの生産地域からと輸入による今シーズのカカオの港湾倉庫への着荷数量の合計（5月1日～12月30日の期間）が前年対比で25%の増加となっていることがバリア州商業組合の統計により判明した。ブラジルは現在ミッドクロップの収穫期の途中である。

ブラジル 2012/13 シーズン 着荷数量 (5/1～12/30) 単位：60kg 袋

	<u>週間</u>	<u>合計</u>
バイア州	54019	2,368,295
その他の州	10,015	863,069
他国（輸入）	0	284,599
Total（袋数）	64,034	3,515,963
Total（トン）	1,067	210,958

ブラジル 2011/12 シーズン 着荷数量 (5/1～12/30)

単位：60kg 袋

	週間	合計
バイア州	41,571	1,880,448
その他の州	8,119	589,009
他国（輸入）	82,890	354,261
合計（袋数）	132,580	2,823,718
合計（トン）	7,954	169,423

参考情報) 2013 年年初の為替動向について ～アナリストの意見を比較～ *1月7日時点

①目先、90円目指す、年央にいったん下落へ—B TMU・内田氏

内田稔・三菱東京UFJ銀行市場企画部市場ソリューション室チーフアナリスト＝新年に入ってからドル円相場は、上昇基調が強まり、先週末の米雇用統計が予想ほど強くない結果でも1ドル＝88円台が維持された。昨年末からのドル円は上昇基調に弾みがついており、市場の雰囲気は90円の大台を見ないと収まりがつかない状況となっている。このため、1～3月期に関してはドル円のレンジをやや切り上げ、上限として91円を見込んでいる。ただ、今年全体としてはドル円の上昇は持続的なものではなく、4～6月期、6～9月期はいったん下落局面に入り、79～88円と下限で80円を割り込むレンジを予想している。これは、緩和期待が先走った形での円売りが長続きしないほか、米経済の雇用改善も足踏みが見込まれるためだ。10～12月期については米経済の回復が強まるという前提で80～90円のレンジを予想する。なお、足元のドル円上昇は勢いがあるとはいえ、IMMの円ショートポジションはこれ以上は積み上がらず、オプションのリスクリバーサルもドルコールが強い状態は一服しており、ドル円の上昇期待はピークアウトしている可能性があることには注意が必要だ

②90円試しには懐疑的＝「やれやれの売り」で—FXプライム・柳澤氏

柳澤浩・FXプライムチーフアナリスト＝ドル円相場について、市場では「1ドル＝90円台を試す展開になる」との見方も出ているが、ここから一段のドル高・円安にはやや懐疑的だ。それは、2010年当時に90円前後でドルを大量に買った投資家が多く、「やれやれの売り」が出やすいためだ。上値は88円台後半～89円程度で抑えられるのではないか。下値もさほど深くはなさそうだが、86円台後半程度までは調整する可能性があるともみている。

前週末は米連邦準備制度理事会（FRB）の政策が関心を集めた。連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨から、FRBが量的緩和を年末よりも早期に終了するとの見方が浮上した。さらにセントルイス連銀のブロード総裁が量的緩和の年内打ち切りの可能性に言及したほか、フィラデルフィア連銀のプロッサー総裁も米国の年末の失業率について楽観的な見方を示しており、これらの材料がドル買いにつながった。今週はオバマ大統領が公務に復帰し、歳出削減問題や連邦政府の債務上限の引き上げといった難題に取り組むことになる。こうした要因から、今週のドルは強気一辺倒にはなりにくいだろう。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp